



# 体験活動プログラム



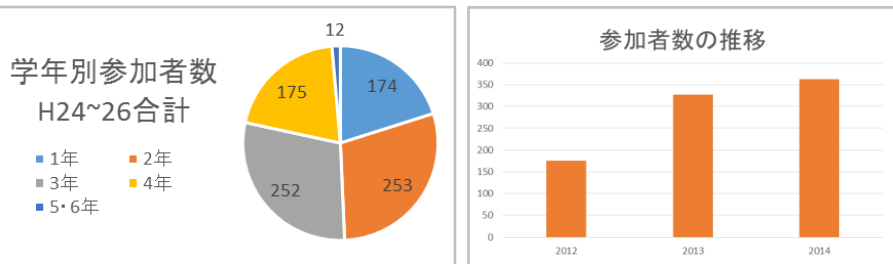
Hands-on Activities

東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

## 体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生が、これまでの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムです。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイデアや発想力を生み出す力を身に付けます。

東京大学独自のプログラムとして平成24年度から国内外問わず実施され、ボランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業・自然体験や地域体験、学内研究室体験など、多様なプログラムで構成されています。



オーガニック農場ボランティア(アメリカ)



漁業体験(三崎臨界実験所)



地方自治体就労体験(三重県)



イオン液体実験(新領域創成科学研究科)



森林フィールド調査  
(東京大学北海道演習林)



卒業生の職場OECD訪問(フランス)

## 体験活動プログラムの効果 ※平成26年度

体験活動プログラムに参加する効果を、プログラム終了後に参加学生が提出する活動報告書に加え、東京大学教育学研究科教育心理学専攻の大学院学生が行う質問紙調査による心理学的な成果測定と、プログラムに調査者が参加・同行する参与観察で検証しています。

### 参与観察

院内学級での学習ボランティアと、農業・漁業と地域体験の、参加学生の変化を観察し語りから考察した。

⇒両プログラム共通で、自身の専門分野の必要性や責任が芽生えた。

### 質問紙調査による効果評価

体験活動の前後で、2項目で大きな変化があった。

- 活発で社会的な行動をとる程度を表す「外向性」値の高まり  
⇒社会進出を志す積極性の向上  
・コミュニケーション能力の向上
- ストレス耐性の高まり  
⇒新しい生活の対応能力習得

### 参加学生の感想

初めて渡米し、ニューヨークでは言語、慣習、文化など様々な人間がともに生きている多様性を感じ、世界は広いと衝撃を受けた。(ニューヨーク卒業生との交流)

認知症の妻と足が一本無い夫の高齢者二人で暮らす家や、深夜の老人ホームで高齢者たちのおむつを替えて回る男性など、普段想像できない世界を見た。自分の状況が普通ではなく、ある意味で恵まれた、そしてある意味で狭い世界だと思いついた。(千葉県 在宅医療体験)



参加学生が活動について発表する報告会は、参加学生有志が司会や誘導を務めます。

**本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。**

東京大学本部学生支援課 体験活動推進チーム  
taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542  
http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19\_j.html

